

「パラリンピックに関わる障がい者スポーツについて」

理学療法学科准教授 井上和久

I. パラリンピックとは¹⁾

パラリンピックは、障がいのあるトップアスリートが出場できる国際競技大会で、夏季・冬季大会があり、それぞれオリンピックの開催年にオリンピックと同じ都市・同じ会場で行われています。国際パラリンピック委員会は、パラリンピックの価値（図1）を4つ挙げています（勇気・強い意志・インスピレーション・公平）。この4つの価値をもとに我々理学療法士は、病院・施設等で治療を終了後、障がいを持った方達に、22競技²⁾について対象者それぞれの能力に応じ、その方に合ったスポーツを紹介・提案しています。ただ、残念ながら全ての理学療法士がパラリンピックの競技全てを把握し、障がい者の方達に紹介・提案出来ていないため、今後理学療法士養成校が授業等でこういった情報を学生に教えていくことが重要だと思います。現在新型コロナウイルスの影響により今年開催予定だったパラリンピックも来年2021年8月24日から開催予定に変更となっています。皆さん来年、東京でパラリンピックが開催される際は、障がいを持った方達がスポーツに取り組みられた成果を発揮している場面をどのような媒体（会場での鑑賞・メディアでの鑑賞等）でも構いませんので、機会があれば観ていただければ幸いです。

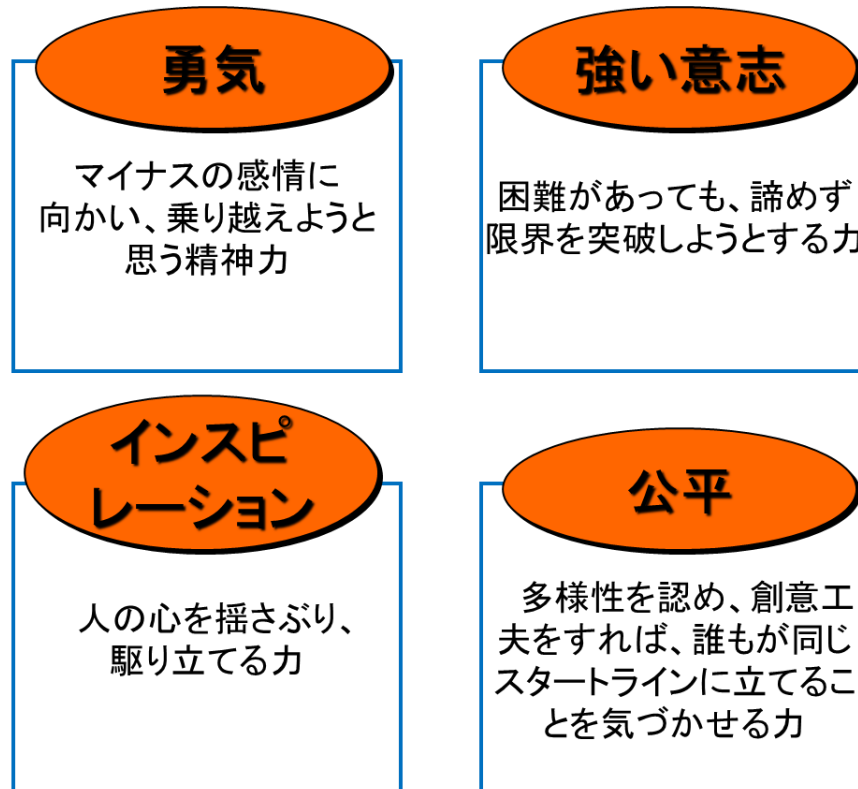


図1 パラリンピックの価値 文献1より引用改変

国際パラリンピック委員会は、パラリンピアンたちに秘められた力こそが、パラリンピックの象徴であるとし、四つの価値を重視しています。国際パラリンピック委員会発表の英語表記は「Equality」でありその一般的な和訳は「平等」ですが、「平等」な状況を生むには、多様な価値感や個性に即した「公平」な機会の担保が不可欠です。そしてそのことを気づかせてくれるのがパラリンピックやパラアスリートの力である、という点を強調するため、国際パラリンピック委員会承認の下、あえて「公平」としています。

II. パラリンピックと理学療法士

本学の授業では、「義肢装具学」「義肢装具学実習」の科目をカリキュラムの中に配置しています。義肢とは、切断によって四肢の一部を欠損した場合、もとの手足の形態又は機能を復元するために装着し使用する人工の手足を指します。この科目の中で特に義肢に関する講義内容として、パラリンピックに関する授業を少し展開しています。主に義足（図2）を装着し、走り幅跳びやトラックを走行する場面など、パラリンピック競技について紹介しています。最近では、テレビの商業チャネルなどで義肢（義手・義足）を装着し、スポーツを行う場面を見ることもあります。義肢は、日常生活をできるだけ不自由なく過ごせるために医師の指示の元に患者・利用者さんに合った義手・義足を義肢装具士が作製します。義手は作業療法士が、義足は理学療法士が治療場面等で関わることになります。我々理学療法士は、患者・利用者さんが何かスポーツをする要望がある場合、将来（退院後・退所後）を想定しパラリンピックの競技スポーツを紹介することがあります。パラリンピックの競技スポーツの詳細（競技概要・対象障がい・競技の紹介など）は、日本パラリンピック委員会¹⁾や東京オリンピック2020²⁾のホームページなどで紹介されていますので、そちらをご覧くださいませければ幸いです。

普段、障がいを持たない方たちはあまりこういったスポーツについて触れる機会がないため、何らかの理由で障がいを持った場合、スポーツができるというイメージがほとんどないと思います。そういった状況の中で我々理学療法士がその方に合ったスポーツを紹介・提案させていただくことにより、よりQOL（quality of life）を向上できる良い機会になると思います。



a:股義足・大腿義足



c:エネルギー蓄積型足部



b:下腿義足



d:模擬義足

図2 授業で使用している義足

a: 股義足・大腿義足は、股関節や大腿部で切断した場合使用する義足。b: 下腿義足は、膝関節より下で切断した場合使用する義足。c: エネルギー蓄積型足部は、大腿・下腿義足に取り付ける足部パーツ。d: 模擬義足は、切断者が義足を装着し、どのような歩行をしているか切断者の歩行を模擬的に体験する義足。

引用文献

1) 日本パラリンピック委員会：パラリンピックとは.

<https://www.jsad.or.jp/paralympic/what/index.html> (令和2年4月30日閲覧)

2) 東京オリンピック2020：パラリンピック競技.

<https://tokyo2020.org/ja/paralympics/sports/> (令和2年4月30日閲覧)